

# 私見 Thursday 創見

「想像力」は相手の心を想  
像できる力であり、「創造力」  
は新しいものを生み出す力で  
ある。芸術教育は、他者を受  
け入れ、他者への繊細な感性

を持ち、差異を最大に認める  
感覚を育てることが出来る。  
そして、無関係だった点を  
結び新たな意味を創ること  
につながる。

新型コロナウイルスの感染  
拡大を受け、深刻な影響を受  
けている芸術文化活動。自  
らが求められ、「不要不急」と  
いう言葉が芸術や文化に向け  
られた。商業的なエンターテ  
インメントと混同され「一部  
の人のための」「娯楽」と捉え  
られているためだ。

状況は全く違うが、東日本  
大震災の際にも同じような事  
象が起きた。10年前、勤務先  
である東京芸術大学の入試試  
験直後に震災に遭遇した。審  
査が終わり、入試の片付けを  
している最中の出来事だっ  
た。試験期間中ではなく、良  
かったと、スタッフと安堵し  
たことを覚えている。程なく  
自粛ムードが漂い始め、予定  
していた個展が中止となり  
表現する場を失った。  
今、自分にできることは何

## 「芸術文化」にできること

### 見えない心の傷を癒やすもの

かを問い続ける日々の中で、  
何のために絵を描いているの  
だろうと無力感に支配され  
た。このままでは前に進むこ  
とができないと思い、焦燥感  
に襲われながらボランティ

アとして被災地に駆けつけ  
た。  
宮城県石巻市牡鹿半島・萩  
浜や女川町で見た光景、臭い  
は今でも鮮明に記憶してい  
る。車に積みこめるだけの物

資と、子どもをアートで勇気  
づけるための画材を持って行  
った。しかし、そんな状況で  
は、衣食住もままならない  
中、できることはただただ  
れきを撤去することだけだっ  
た。現地の方と食事をする機  
会があり、おじちゃん「駆  
けつけて来てくれたことが、  
本当にうれし」という言葉  
に救われ、涙が止まらなかつ  
た。

この時の経験が原動力にな  
るのだと確信している。『芸  
術文化』の役割を問われるこ  
とが少なくないが、その力は  
目に見えないものでなく少し

映す鏡」なのだと感じたこと  
はないかもしれない。  
家族と通じたあちこち時間  
の思い出や、時代を反映する  
もの(パソコン・スマホ・テ  
ーム・マスクなど)が多く表  
現されていた。そして「今年  
こそは」と、心の支えであ  
るお祭りの「場面を描く手  
も。日常がいかに薄く大切で  
あることを実感し、見えない  
ものに支えられていたことに  
気づきかけにもなったのだ  
だろう。見えないものに「懺悔  
され、我慢を強いられている  
今の子どもたちが「想像力と  
創造力」を武器に未来を切り  
開いていく時代がきっとく  
ると信じている。



佐貫 巧

八戸学院大  
短期大学部准教授

さぬき・たくみ  
1982年、静岡県生まれ。  
多摩美大卒、東京芸大大学院修了。2013年から現職。14年より八戸圏域で現代芸術教室「アートイース」を主宰し、アートや少しの世の中をつくる活動をしている。おいらせ町在住。

ずつ心で届いていくものだ。  
健康に見えても、みな少な  
らず罹患していて、心に傷を  
負っている。そのような見え  
ない傷に対して有効なのは、  
見えない力を持つている『芸  
術文化』であり、「見えない  
心の傷を癒やすもの」である  
と強く言いたい。そして苦境  
を強いられる中、勇気を  
持つて表現活動に関わって  
いる方々に賛辞を贈りたい。

子どもは、見えないものを  
感じとり、表現することがで  
きる天才だと日々感じている。  
アーティストが見えない  
ものを見えるものとして存在  
させろ、プロフェッショナルだ  
としたら、間違いない子ども  
はアーティストだ。数年前か  
ら、本紙の子ども絵画コンク  
ールの審査員を勤めている  
が、今年ほど「芸術は時代を

コロナ禍の中、震災から10  
年という節目を迎え、今一度  
『芸術文化』にできることを  
見つめ直してみたいと思う。